



学校教育目標『心豊かにたくましく生きる児童の育成』  
○考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

朝霞市立朝霞第七小学校  
令和3年2月19日《2月特別号》  
児童数 759名(R3年2月19日現在)  
〒351-0036 朝霞市北原2-6-1  
TEL 048-472-9172 FAX 048-476-1327  
E-mail 7shou@asaka-c.ed.jp  
URL <http://www.asakadai7shou.city-asaka.ed.jp>

## G I G A スクール構想の実現

教頭 松本 欣巳

今後の社会の在り方を示すキーワードとして「Society5.0」という言葉があります。内閣府ホームページには「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」と紹介され、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。（ちなみにSociety 1.0は狩猟社会、Society 2.0は農耕社会、Society 3.0は工業社会、Society 4.0は情報社会だそうです。）

令和元年12月に萩生田文部科学大臣は「Society5.0時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所で ICT の活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子供たちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。」とメッセージを出しています。

G I G A スクール構想(GIGAはGlobal and Innovation Gateway for Allの略)はこれらを実現するため、5年間で校内に高速無線LAN環境を整え、すべての児童生徒に1人1台のタブレット端末を整備していく計画でした。しかしながら、直後に新型コロナウイルス感染症が拡大し、学校も臨時休業となりました。児童の学びを止めないという視点から、家庭でのオンライン学習が注目を浴びる中で、計画を前倒して令和2年度中に全て実施することになりました。

朝霞市においても教育委員会が整備計画を策定し、それに基づいて校内無線LAN整備工事、タブレット端末導入準備を進めています。すべての小中学校にタブレット端末としてiPadが導入され、本校にも3月中に約800台が納品されます。4月から1人1台のタブレット端末を児童に配付し、授業における活用ができるよう準備を進めています。

児童の学習にタブレット端末をどのように活用していくか、文部科学省では「学校におけるICTを活用した学習場面」として大きく3つの場면을挙げています。（詳細は裏面参照）

### A 一斉学習

写真や動画、挿絵などを個別に配信することで、分かりやすく、興味や関心を高めることができる。

### C 協働学習

タブレット端末を活用して、教室内での意見交換や発表などの互いに学び合う学習が可能となる。

- ・発表や話し合い、意見整理、協働制作
- ・学校間や地域間での交流

### B 個別学習

自分の学習課題に応じた調べ学習を進めたり、自分の学習進度や理解度に応じて学習したりすることが可能となる。

- ・個の習熟度に応じた学習
- ・インターネット等を用いた調査活動
- ・思考を深めていく学習
- ・マルチメディア（写真やイラスト）を用いた資料  
・作品の制作

学習の様々な場面での活用が想定されますが、タブレット端末を授業で使用することが学習の目的ではありません。各教科等での児童の学びをより確実かつ深めていくため、個別最適な学び、協働的な学びを行うためのツールとしてのタブレット端末です。（すべての授業で使用していくわけではありません。）また、タブレット端末がより身近になることで、児童の情報モラルもより重要になってきます。これらの視点を大事にしながら、児童に「予測困難な社会」を生き抜くために必要な資質・能力を育成するため、朝霞第七小学校の教育活動を進めてまいります。

# 学校におけるICTを活用した学習場面

<p><b>A 一斉学習</b></p> <p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用し、分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p><b>A1 教員による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p><b>B 個別学習</b></p> <p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>	<p><b>B1 個に応じる学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p> <p><b>B2 調査活動</b></p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p><b>C 協働学習</b></p> <p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>	<p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p> <p><b>C2 協働での意見整理</b></p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>	<p><b>B3 思考を深める学習</b></p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p><b>B4 表現・制作</b></p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p><b>B5 家庭学習</b></p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p><b>C3 協働制作</b></p>  <p>グループでの分組、協働による作品の制作</p> <p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>
--	--	---	---	--	---	--	--	--